

## 第 52 回全国学校体育研究大会東京大会開催にあたって

同大会実行委員会

会長 古家 眞

第 52 回全国学校体育研究大会東京大会の開催にあたり、一言御挨拶を申し上げます。

平成 20 年度から順次改訂された学習指導要領の体育・保健体育においては、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けて、小学校から高等学校までの 12 年間を見通し、発達の段階を踏まえた系統性のある指導と各領域の指導内容を明確にしつつ、その定着がより一層図られるよう求められています。

そこで、本大会の開催に向けて、学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、子どもたち一人一人が各種の運動がもつ特性や魅力に応じて、基礎的な身体能力や知識を身に付け、生涯にわたって運動に親しむことができるように、研究を進めてきました。

具体的には、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を身に付ける体育学習」という大会主題のもと、幼・小・中・高・特別支援の各校園種ごとに発達の段階や障害の状況に合わせて研究主題を設定しました。さらに分科会会場ごとの各運動領域に合わせた研究主題を設定することにより、研究の内容を明確にするとともに、焦点化を図ってきました。

そして、研究が進展してきた昨年 7 月より、幼稚園 1 園、小学校 9 校、中学校 3 校、高等学校 2 校、特別支援学校 2 校全ての分科会会場校 17 校園でプレ研究発表を行いました。このプレ研究発表によって、各校園の授業研究や会場校運営にあたっての課題や達成目標等が明確になってきました。

11 月の東京大会まで実行委員会と各分科会会場校では、十二分な準備をして、全国からのお客様をお迎えしたいと思っております。

東京での開催は昭和 54、55 年度の連続開催以来 33 年ぶりです。ぜひとも多くの皆様の御参加をお願い申し上げますとともに、私たち東京の研究への御批正を頂戴できれば幸いです。